

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立北糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・小数・分数の内容では、その仕組みや大小関係の理解をどの学年も深めていた。「なぜそうなるのか。」という自分の考え根拠を示したり既習内容を適宜振り返らせたりすることを下学年の時より意識させながら指導してきたことは効果的であった。
- ・少人数指導や補習教室を生かし基礎学力の向上を図ったことで計算の基礎が身に付いてきている。特に第4学年では四則演算の問題の達成率が目標値より大きく上回った。

(2) 課題

- ・数と計算の領域は前年度と比較すると達成率が上昇してきたが、目標値は下回っている学年もある。継続して繰り返し練習問題に数多く取り組ませ、基礎を確実に定着させていく必要がある。
- ・計算の仕方や作図については、児童にとって手続き的な処理として定着している実態が今年度も見られる。意味指導に重点を置き言葉や図で説明をさせ、児童の思考を深めさせたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	達成率+0.6		
第5学年	達成率-2.5	達成率-1.6 (第4学年時)	
第6学年	達成率-6.2	達成率-5.6 (第5学年時)	達成率-0.9 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・整数の四則演算については、四則演算を扱う大問において全ての問題の正答率が目標値を大きく上回った。計算の仕方の基礎が定着してきたと言える。 ・重さの単位や「半径」「直径」などの言葉の理解につまずきが見られた。	・四則演算の正答率が目標値を大きく上回っていたが、計算の仕方を言葉で説明することの正答率と比例しなかった。計算の仕方や式の意味を言葉で表すことや□を使って式の構造を捉えたりすることが課題である。	・作図やグラフなどの問題に意欲的に取り組んでいた。また、記述問題においては適当に回答するのではなく、理由を基に考えるという姿勢が解答状況より見られた。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・小数や分数の仕組み・大小比較・計算の正答率は5年・6年共に平均値を上回っており、数の捉え方についての定着が見られた。 ・5年は図形の作図、6年は円グラフや帯グラフの読み取りに課題が見られた。	・5年6年のグラフから読み取った内容の誤りを指摘する問題では、誤りには気づくことができていたが、文章で表すことの正答率は平均値を下回った。	・各記述問題の無回答率は区の平均値と等しいか平均より低いものであった。しかし、主体的に学習に取り組む態度の値は目標値より下回っていた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・長さや水のかさ等、実際に測定する経験を通し量感を養う。 ・加法、減法、乗法が用いられる場面では、ブロックや手指などの具体物による操作を行い、演算の意味の理解を図る。 ・基本的な計算が確実に身に付くように、ステップ学習（タブドリ Live!）やドリル等で繰り返し練習して習熟を図る。	・問題を最後までよく読み、問われている内容を理解するように考えさせるために、問題文に線を引いたり印をつけさせたり、図を活用する体験を多くして、今後の学習への素地作りをする。 ・生活様式の変化により、お金（硬貨・両替）や時刻と時間などについての知識が乏しい児童が多くいる。一般的と思われる知識も取り上げて確認し、児童の思考につなげる。	・具体物を用いた活動や体験的な活動を多く取り入れたり、日常生活とのつながりを意識させたりすることで学習への意欲付けをする。 ・導入の際にICT機器を活用して学習の見通しをもたせたり、関連する学習動画を使い興味をもたせて学習できるように工夫する。 ・意欲的に自分の考えを発表できるようペア学習やグループ学習の時間を設定し、少人数指導での個に応じた指導を行う。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・タブレットでのステップ学習（タブドリLive!）やドリル・プリントを活用し、計算問題の習熟の時間を多く確保する。 ・重さや長さの単位などの算数に関する用語は、学習の中で意識して使わせたり、教室掲示をしたりして定着を図る。	・計算の筆算を扱う際には、既習内容とつなげながら筆算の仕方について言葉で振り返らせる。 ・演算決定の際には□を使った図に表したり、言葉の式を用いたりすることを手掛かりにできるようにする。また、ペア学習などで自力解決した方法を発表させ、自分の考えを深めたり、他の考えに触れたりして様々な解決方法を学ぶ機会を作る。	・習熟度別少人数指導による、児童一人一人に応じた指導を行う。また、実際に測定を行ったり身近な内容をグラフに表したりと学んだことと日常とのつながりを意識させ学習意欲へつなげる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・計算指導では、操作的な指導に偏らず意味指導に重点を置いて数感覚が育つようにする。 ・習熟の時間を確保し、ステップ学習（タブドリLive!）やドリル等を活用して定着を図る。また、途中の計算式を正しく書くことで基本の計算が定着していくよう指導する。 ・図形の学習では、実際に操作をすることを通して公式や図形用語の理解と定着を図る。	・グラフでは、ICT・児童のタブレット端末を活用して、グラフや図から情報を視覚的に捉えさせる。 ・ペア学習などで自力解決した方法を発表しあい、自分の考えを深めたり他の考えに触れたりして様々な解決方法を学ぶ機会を作る。	・少人数指導による、個に応じた指導を行う。既習事項を生かして自力解決をする場を授業の中で意識的に設定する。 ・ペア学習やグループ学習で自分の考えを伝え合う活動を取り入れ、発表をする際にはノートを電子黒板に映すなど ICT 機器を効果的に活用して意欲的に活動できる工夫を行う。